

I でん粉の概況

1 海外の動向

(1) でん粉製品概況

英国の調査会社である LMC 社によると、でん粉及び糖化製品などでん粉を加工したもの（でん粉製品）の 2007 年の生産量は、8,092 万 6,000 トンで、2006 年の 7,828 万 2,000 トンから 264 万 4,000 トン（3.4%）増加すると見通している。特にアジア地域での増加が著しく、前年比 7.1%の増加の見込みとなっているが、一方、北アメリカ地域では異性化糖などの糖化製品の生産が停滞傾向にあることから生産量はわずかに減少の見込みとなっている。

でん粉製品の種類別の内訳では、天然でん粉が 2,064 万トン、糖化製品が 4,261 万 8,000 トン、発酵製品が 1,149 万 4,000 トン、化工でん粉などが 617 万 4,000 トンである。さらに、天然でん粉を原料別に見ると、コーンスターチが 1,220 万 9,000 トン、タピオカでん粉が 740 万 5,000 トン、ばれいしょでん粉が 253 万 4,000 トン、小麦でん粉が 119 万 1,000 トンである。

でん粉製品の消費量は、前年の 7,838 万 1,000 トンから 277 万 4,100 トン（3.5%）増加し、8,115 万 5,000 トンになるとしている。生産量と同様にアジア地域での伸びが大きいが、北アメリカ及び中央アメリカ・カリブでは減少している。

(2) とうもろこしの国際価格の推移

コーンスターチの原料であるとうもろこしについて、2007 年 4 月～2008 年 3 月のシカゴ先物相場（期近）を見ると、初めは変動していたが 8 月以降は一貫して上昇傾向で推移した。3 月には過去 10 年で最高の 1 ブッシュェル当たり 565.25 セントを記録し、月平均も最高の同 547.59 セントとなった。

世界のとうもろこし生産量の約 4 割を占める米国では、作付面積や生産量が増加したが、同国におけるエタノール需要の増加により、世界のとうもろこし需給がひっ迫し、2007/08 年度の期末在庫は 1983/84 年以来 25 年ぶりの低水準になると見られたことが、価格の上昇要因となった。

2 国内の動向

(1) でん粉概況

平成 19 年度の国内産いもでん粉の生産は、ばれいしょでん粉については、5 月後半の低温により原料いもの植え付け後の萌芽が遅れたが、その後回復し、でん粉生産量は前年度から 2 万 8,000 トン（13.5%）増加し、23 万 5,000 トンとなった。一方、かんしょでん粉については、原料いもが大雨や台風による被害を受けたことに加えて、9 月以降の夜間の温度が高温で推移したことから単収が落ち込み、でん粉生産量は前年度から 8,000 トン（15.1%）減少し、4 万 5,000 トンとなった。

コーンスターチ用とうもろこしの 19 年 4 月～20 年 3 月の輸入量は、347 万 7,000 トンであった。でん粉の輸入量は、コーンスターチが 543 トン、ばれいしょでん粉が 1,609 トン、マニオカでん粉が 15 万 7,233 トン、サゴでん粉が 1 万 6,780 トン、小麦でん粉が 0.95 トン、その他が 958 トンであった。また、化工でん粉の輸入量は、でん粉誘導体が 42 万 6,760 トン、デキストリンが 7,159 トン、膠着剤及び仕上げ剤などが 468 トンであった。

3 国内産いもでん粉の生産動向

(1) ばれいしょでん粉

ア ばれいしょの生産

平成 19 年産ばれいしょの作付面積は前年産比 1,200ha 増の 5 万 6,900ha、作付農家戸数は前年産比 700 戸減の 1 万 5,900 戸、一戸当たりの作付面積は前年産比 0.18ha 増の 3.58ha であった。

ばれいしょの 1 ha 当たりの収量は 39.4 トン（前年産 36.3 トン）、総収量は 224 万 2,000 トン（前年産 202 万 2,000 トン）といずれも前年産比増となった。うちでん粉原料用ばれいしょは 110 万 2,000 トン（前年産 94 万 5,000 トン）と前年産比 15 万 7,000 トン増の収量となった。

イ ばれいしょの生育概況

5 月後半の低温により 6 月に入って植付後の萌芽が遅れたが、7 月になって着蕾から開花、8 月の終花と平年並みに推移し、収穫作業は 9 月に入って平年並に始まった。10 月の収穫作業も平年並みに進んだ。一株当たりのいもの数はやや少なかったものの、いも 1 個の重量はやや大きかった。

ウ ばれいしょでん粉の生産

平成 19 年産のばれいしょでん粉生産量は 23 万 5,000 トン（前年産 20 万 7,000 トン）と前年産比 2 万 8,000 トンの増となった。歩留は 21.4%とほぼ前年並であった。

(2) かんしょでん粉

ア かんしょの生産

平成 19 年産のかんしょの作付面積は前年産比 400ha 増加の 1 万 7,000ha、作付農家戸数は前年産比 1,900 戸減の 2 万 1,100 戸、一戸当たりの作付面積は前年産比 0.09ha 増の 0.81ha であった。

かんしょの 1 ha 当たりの収量は 26.1 トン（前年産 28.5 トン）、総収量は 44 万 3,000 トン（前年産 47 万 2,000 トン）といずれも前年産比減となった。うちでん粉原料用かんしょは 14 万 5,000 トン（前年産 16 万 8,000 トン）と前年産比 2 万 3,000 トン減の収量となった。

イ かんしょの生育概況

でん粉原料用かんしょの主要な生産地の鹿児島では、大雨により露地栽培の畦が崩れるなどの被害があった。また、台風 4 号によるかんしょの地上部の欠損、裂傷等の被害が大きかった。9 月以降は夜間が高温で推移したため、でん粉蓄積が抑制され、10a 当たりの収穫は例年に比べて落ち込んだ。

ウ かんしょでん粉の生産

平成 19 年産のかんしょでん粉生産量は、4 万 5,000 トン（前年産 5 万 3,000 トン）と前年産比 8,000 トンの減となった。歩留は 31.2%とほぼ前年並みであった。